



整形外科科学講座

自らを律し、患者さんの「痛み」を理解して 対応できる整形外科医を育成



主任教授 紺野 慎一

あらゆる整形外科サブスペシャリティを実習可能

整形外科科学講座では、12の専門クリニック(脊椎、骨軟部腫瘍、股関節、膝関節、リウマチ、小児、肩関節、スポーツ手外科、重度四肢外傷、麻痺・末梢神経、足の外科)を設けて診療を行っており、幅広い分野の実習が可能です。年間の手術件数は1,000件に達しており、コンピューター支援の脊椎手術や人工関節置換術、および切断四肢に対する再接着術など、最先端の手術が行われています。

世界をリードする福島の「慢性腰痛」研究

当講座では、古くから、慢性腰痛を主たる研究テーマとしています。椎間板、椎間関節、神経根、および脊髄など、様々な組織に注目した基礎研究を行い、国際腰椎学会での最優秀賞を含む数々の研究成果を発表してきました。

一方、近年は、慢性腰痛に関わる脳神経回路網における解剖学的、機能的変容に対する研究まで、そのテーマを広げています。当講座は、世界で初めて、慢性腰痛患者では、痛みに対する不快な情動がより強く生じ、下行性疼痛抑制系の機能低下が生じていることを証明しました(図1)。

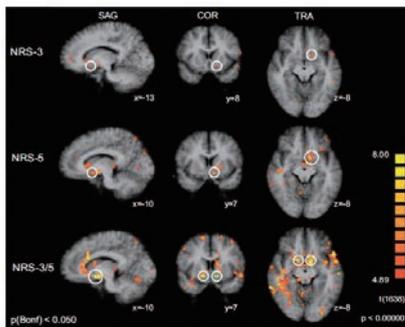


図1 慢性腰痛患者における脳活動(白丸;疼痛抑制に関わる側坐核)

患者さんに接する学生実習

5年次のPrimary courseでは、手術参加や骨折に対する副子固定実習などを通して、整形外科の基本手技を経験していただきます。

一方、6年次のAdvanced courseでは、病棟チームの一員として、患者さんに密に接していただきます。指導医とともに、担当患者さんに対する、診察/評価、診断、手術、および手術後の経過フォローを1ヶ月の実習期間で経験します。また、希望者には、学会発表も行つていただきます。当講座の医局員が、研究のデザインから、口演発表・質疑応答まで指導を行いますので、興味のある学生さんは、ぜひ挑戦していただきたいと思います。

スポーツ医学への取り組み

当講座では、病院の中から実際のスポーツの現場に出て行って、各種スポーツの関連団体と協同して、スポーツ障害の予防や早期発見を目的としたスポーツ検診を行ったり、練習や試合中のケガの手当を行うためのメディカルサポートを実施したりしています。また、東北楽天ゴールデンイーグルスや福島ユナイテッドFCなど、プロ・スポーツチームとも医療サポート協定を結んでおり、Advanced courseの希望者には、スポーツ現場での実習を行う場合があります(写真1)。医局員のスポーツ活動も盛んであり、各種学会で開催されるスポーツ大会では、優勝を目指して奮闘しています(写真2)。

多彩なメンバーとキャリア・パス

当講座に在籍中の医師の出身大学は、他大学出身者も少なくありません。本学のほかに12の大学出身者が所属しています。出身大学や出身地を意識することなく、和気あいあいとみんなで協力し合つて、一緒に仕事ができるような雰囲気と環境が整っています。また、これまでに国内外の様々な研究機関(国内23施設、海外5施設)への医師派遣実績があり、海外施設との共同研究も数多く行つています。現在、当講座に勤務する教員のうち約9割が国内外の他施設への1年以上の留学を経験しており、様々な文化・経験を積極的に吸収し、福島に持ち帰っています。



写真1 スポーツ現場での活動
(2017年BSL advanced course 第1班)



写真2 2016年日本整形外科学会学術総会
スポーツ大会(3on3バスケットボール)